

「和魂洋才は劣等複合」のゆゑん

「福沢諭吉以下の明治洋學者達を、私は高く評価しない。彼等の多くは、『和魂』も何もあつたものではない。所詮は（上級武士=出世慾=利己心に對する）地方下級武士の劣等感（A）に基づいた立身出世主義（A）が國家有用の實學といふ考へと結びついたのに過ぎまい」・・・とは即ち、「上級武士=出世慾=利己心」に對する劣等感（A的不滿）⇒和魂「B」滑り込みの自己欺瞞⇒國家主義（C' 安全地帶への定着）と言ふ日本の精神主義的構圖（テキストP 9圖）の類型をそれは示す。その爲自己の據り處である國家主義（C'）の後楯（C 2）として洋才が必要であり、故にそれは單なる實學（國家「實益のための學」）で充分なのであつた。（當發表文P 3から）

C2 (洋才・實學=國家「實益のための學」) は以下「C' 國家主義 (安全地帶)」の後盾
=====>

=====⇒ C' [大義：國家意識・近代國家建設・國家主義]

